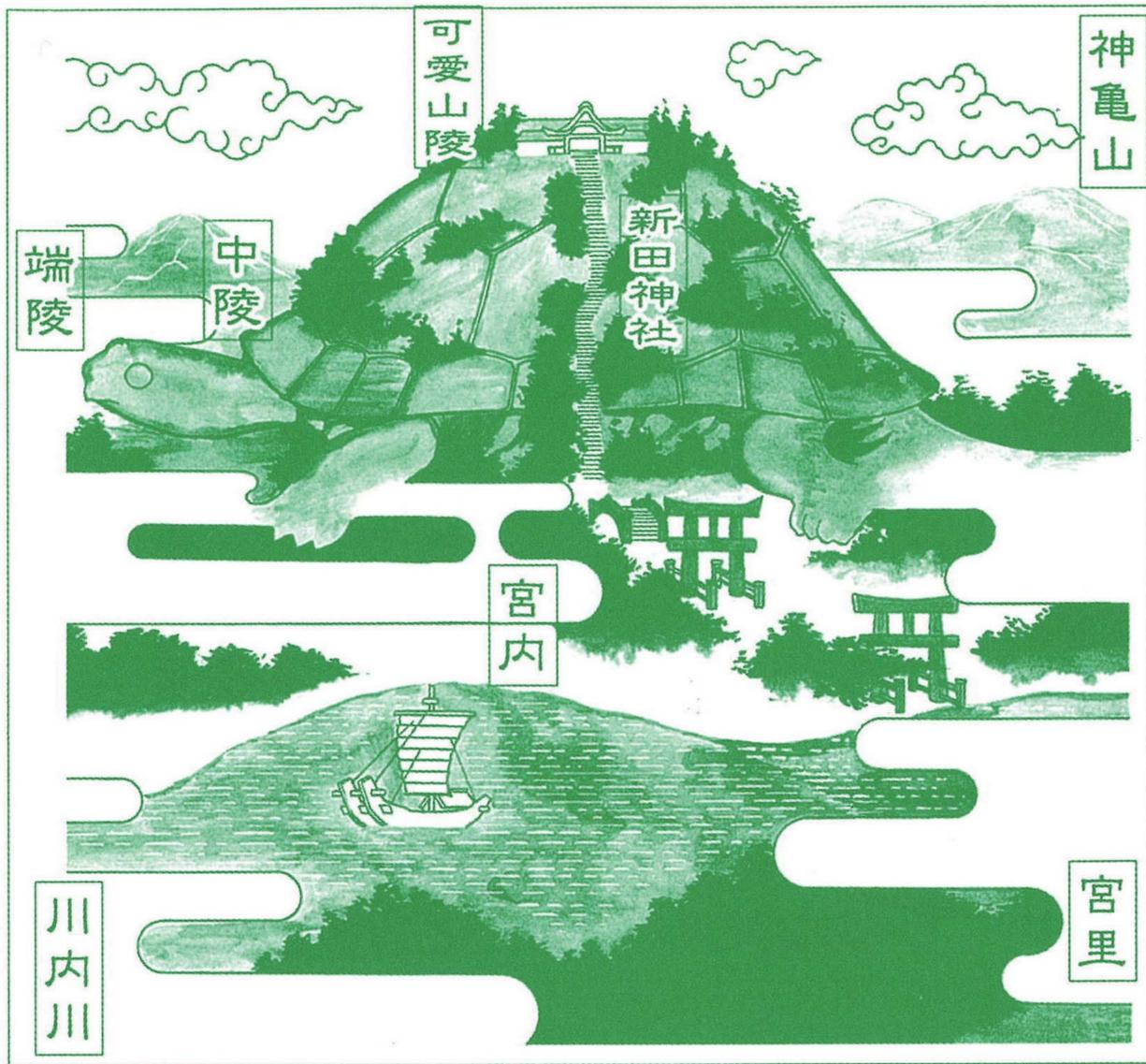


山 亀 神



（一）新田神社は神亀山しんきざんという亀の形をした小高い山の上にあります。まつられていた神様は天皇さまのご先祖にあたるニニギノミコト様を中心として、ミコト様のご家族の神様、食物の神様、山の神様などたくさんのお神様がいらっしゃいます。

に っ た じ ん じ ゃ 新 田 神 社 の お は な し

ゆにはのいなほ しんちよく 日本神話(斎庭稲穂の神 勅)



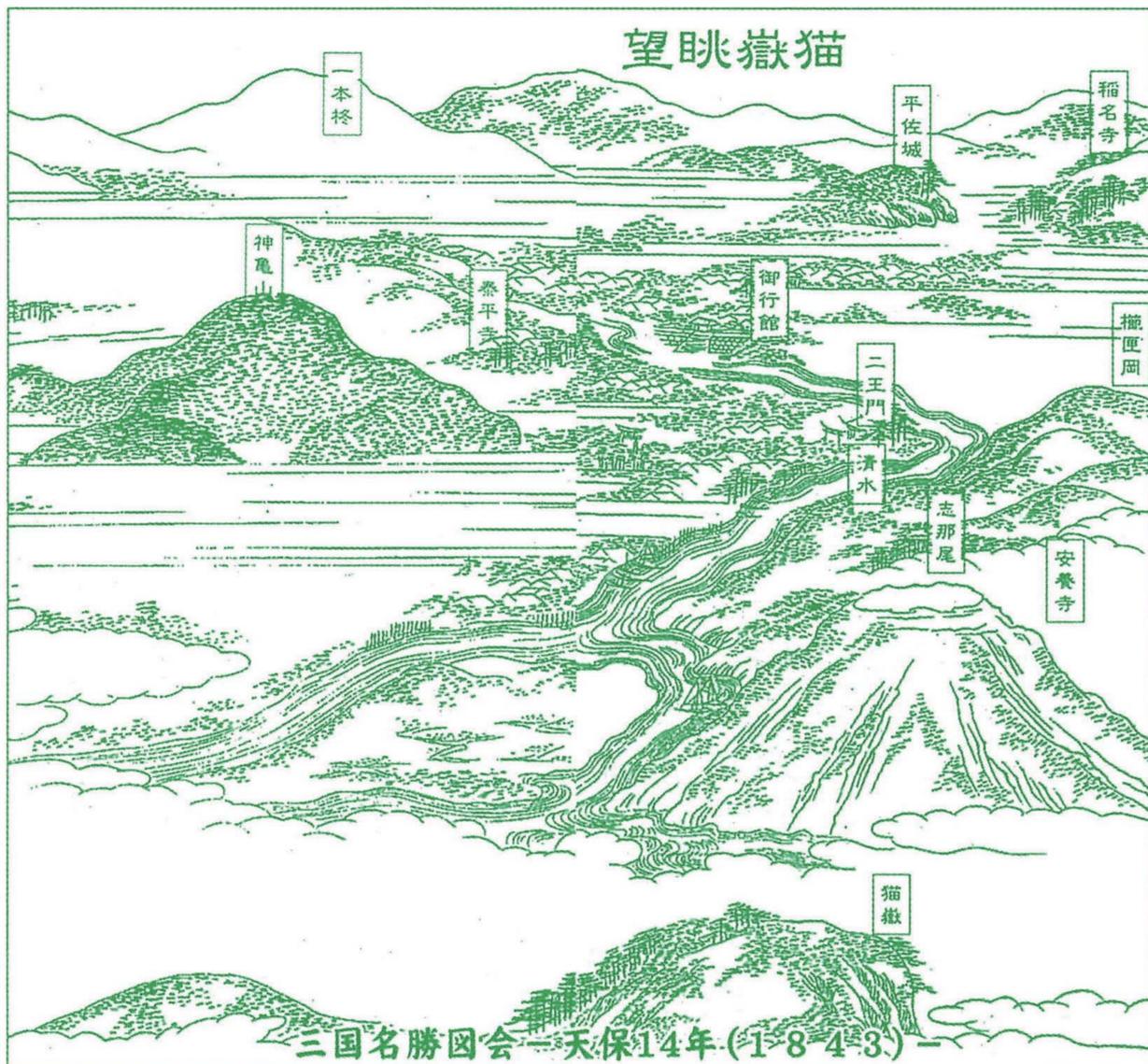
（二）遠い神代の昔、高天原たかまのほらにいらつしやいました太陽の神様アマテラス大神様が孫にあたるニニギノミコト様に私たちの住んでいる地上の世界を治めるようにお命じになりました。その時に稲穂をいっしょにお持ちしてお米をつくるようにおっしゃいました。

てんそんこうりん
日本神話 (天孫降臨)



(三)ニニギノミコト様はたくさんみの神様をおつれになり高千穂(たかちほ)の峯(みね)におりられました。今の鹿児島県の霧島にあたります。そこではじめてお米をお作りになり、続いて同じく今の鹿児島県南さつま市の笠沙宮みやにうつられ、山の神様の娘であり大変美しいコノハナサクヤヒメ様と結婚されてその後、海路東支那海を北上されて川内の地にこられました。

千 台



(四)川内にお着きになられたニニギノミコト様は、この地に立派な高殿うてな(千台)を築いてお住まいになりました。「川内(せんだい)」の名はこの「千台」からきています。やがてニニギノミコト様はおなくなりになられて、お墓がつくられました。これが今の可愛山陵(えのさんりょう)です。そしてニニギノミコト様をおまつりするようになったのが新田神社のはじまりです。

財 化 文

(五)新田神社は神代の昔より長い間サツマのくに（今の鹿児島県西部の古い呼び方）の守り神様として私たちを見守りつづけて今日にいたっています。

また平安時代から江戸時代にかけての古い記録や、神様にささげられた鏡が残っており国の重要指定文化財になっています。社殿等建物はおよそ四百年前のものでその他たくさん宝物が今に伝わっています。



り つ ま

(六)新田神社の「新田」という名前には、ニニギノミコト様が川内の地に川内川から水を引いて新しく田んぼをおつくりになったという意味がこめられています。新田神社には、たくさんのおまつりがありますが、特に農業に関係するおまつりが多いです。春には農産物の豊かな収穫、あらゆる産業の発展を祈り、秋にはみのりを喜んで、神様に感謝します。代表的なものとして三月の早馬祭、六月の御田植祭や十一月の新嘗（にいなめ）祭があげられます。

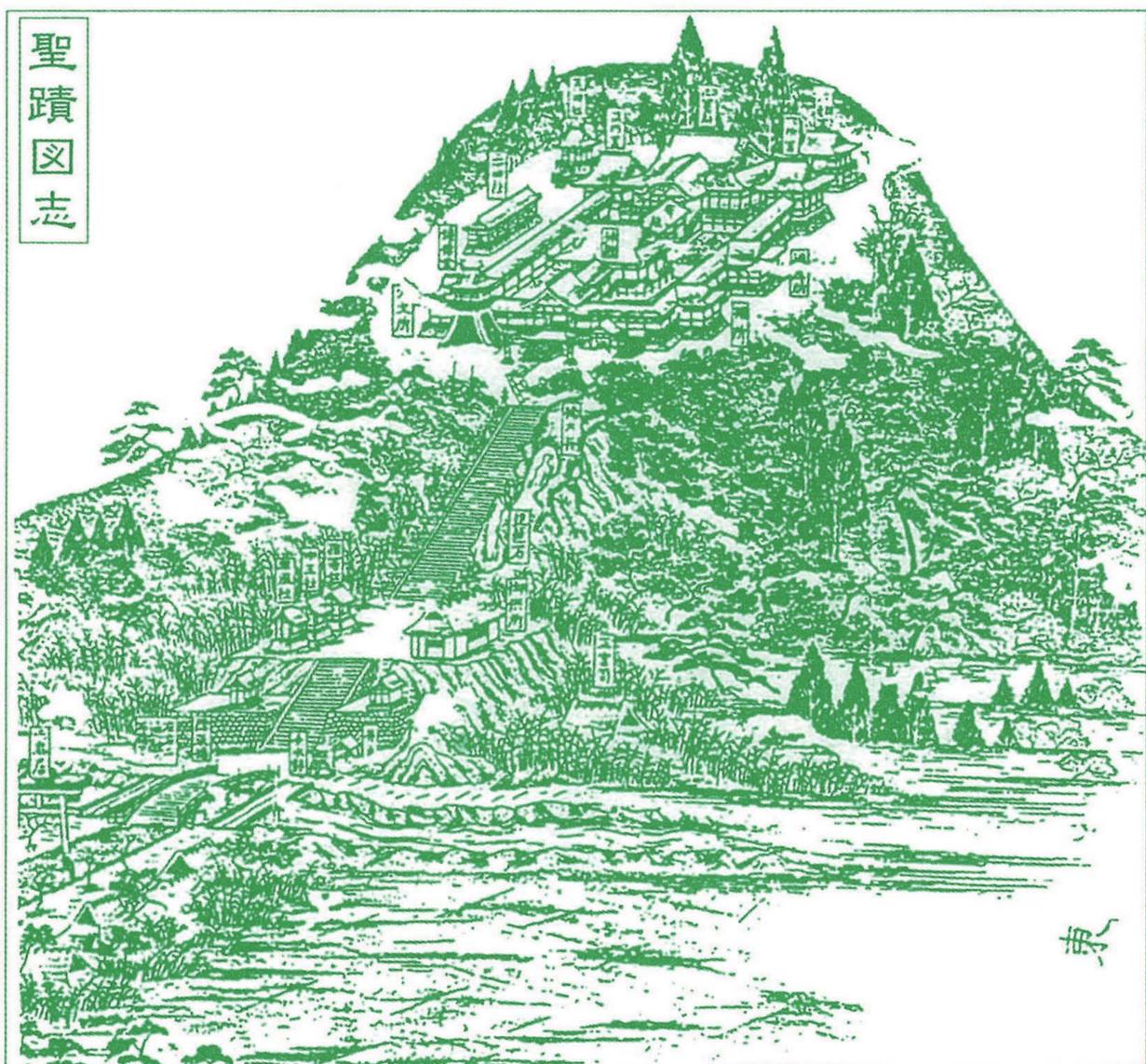


まつり



(七)新田神社で行われる珍しいおまつりとして毎年一月七日に行われる武射祭(むしやさい)があげられます。これは「七日的(なのかまと)」と呼ばれる大きな的に矢をはなち、新しい年が病気やわざわいがないようにおいはらうおまつりで、宮司をはじめみくに幼稚園の園児等が的を射ます。その他園児が参加するおまつりとして毎年七月二十八日に行われる御神鏡清(みかがみすまし)祭などがあげられます。

新田の杜(もり)



(八)新田神社は、こんもりとした森にかこまれておまつりされています。森は、きれいな空気、清らかな水、いろいろな食物、また生活に必要な資材など、さまざまな恩恵を私たちに与えてくれます。私たちの祖先は、こうした恵みに感謝して大切な森に神様をおまつりしました。そして豊かで平和な毎日が送れるように、神様に祈りを捧げ、神社のおまつりをおこなって今日の私たちがあるのです。